

NetIQ Identity Manager 4.8

リリースノート

2019年10月



NetIQ Identity Manager 4.8には、新機能や拡張機能が追加され、さらに使いやすくなっており、以前にあった問題もいくつか解決されています。

これらの改善の多くは、お客様から直接ご提案いただいたものです。皆様の貴重なお時間とご意見に感謝いたします。弊社の製品が皆様のご期待に添えるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。フィードバックがございましたら、弊社のコミュニティサイト [Identity Manager Community Forums](#) までお寄せください。こちらのサイトでは、製品通知、ブログ、および製品ユーザグループのサービスも提供しています。

以前のリリースの新機能の詳細については、[Identity Manager マニュアルの Web サイト](#)で「以前のリリース」のセクションを参照してください。

このリリースと最新のリリースノートに関する詳細情報については、[ドキュメントページ](#)を参照してください。この製品をダウンロードするには、[Identity Manager 製品 Web サイト](#)をご覧ください。

- ◆ [1 ページのセクション 1「新機能と変更点」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 2「サポートされているコンポーネントのバージョン」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 3「システム要件」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 4「NetIQ Identity Manager 4.8 のインストール」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 5「NetIQ Identity Manager 4.8 へのアップグレード」](#)
- ◆ [19 ページのセクション 6「既知の問題」](#)
- ◆ [20 ページのセクション 7「連絡先情報」](#)
- ◆ [21 ページのセクション 8「保証と著作権」](#)

1 新機能と変更点

この後の各セクションでは、このバージョンで提供されている主な機能、製品から削除された機能、およびこのリリースで解決されている問題について概要を示します。

- ◆ [2 ページのセクション 1.1「新機能」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 1.2「サポートしているオペレーティングシステム」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 1.3「修正された問題」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 1.4「変更された機能またはサポートを終了した機能」](#)

1.1 新機能

Identity Manager 4.8 の主要機能、拡張機能、およびこのリリースで解決された問題を以下に示します。

- ◆ [2 ページのセクション 1.1.1 「Identity アプリケーションの新機能」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 1.1.2 「Windows プラットフォーム上の簡易インストール」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 1.1.3 「Identity Manager コンポーネントのコンテナ化のサポート」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 1.1.4 「リモートローダインストールファイルの簡易パッケージ化」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.1.5 「クライアント設定の移動」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.1.6 「Identity Reporting 用の Microsoft SQL データベースのサポート」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.1.7 「Designer での新しいアクションのサポート」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.1.8 「Designer の新機能」](#)

NetIQ Identity Manager Designer 4.8 の新機能の詳細については、『[NetIQ Identity Manager Designer 4.8 リリースノート](#)』を参照してください。

更新された Java バージョンを除き、NetIQ Identity Manager Analyzer 4.8 の新機能はありません。詳細については、『[NetIQ Identity Manager Analyzer 4.8 リリースノート](#)』を参照してください。

1.1.1 Identity アプリケーションの新機能

Identity Applications では以下の新機能が提供されています。

1.1.1.1 新しい Workflow Form Builder

Identity Manager には、プロビジョニング要求定義のフォームを作成および管理するための新しい簡易ツールが用意されています。このツールは、シンプルで直感的なインターフェースを備えています。フォームをすばやく作成および変更できるシンプルなドラッグアンドドロップ機能をサポートしています。フォームは、ユーザアプリケーションドライバのワークフローフォームコンテナに JSON 形式で保存されます。

Workflow Form Builder は Designer と統合されています。Designer のユーザアプリケーションドライバのワークフローフォームコンテナから起動できます。新しいフォームを作成するには、Workflow Form Builder を使用することをお勧めします。

現在、レガシーフォームを新しいフォームに移行するツールはありません。これを実現する唯一の方法は、Workflow Form Builder で新しいフォームを手動で作成し、データ項目を新しいフォームにマッピングすることです。ただし、依然として古いフォームを使用し続けることもできます。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - User's Guide to Form Builder](#)』を参照してください。

1.1.1.2 役割とリソースへのワークフローの追加

Identity Manager では、役割とリソースにワークフローを追加するための新しい簡易的な方法が導入されています。Identity アプリケーションのユーザインターフェースには、[役割とリソース] ページに [ワークフローの追加] という新しいオプションが含まれており、これにより役割とリソースにワークフローを追加することができます。

Designer に切り替えることなく、Identity アプリケーションでワークフローをすばやく作成できるようになりました。ワークフローを追加するために使用できる一連の事前定義されたシステムプレートとプレートフォームが利用可能です。また、Designer で作成されたカスタムプレートに基づいてワークフローを追加するオプションも用意されています。

[ワークフローの追加] ユーザインタフェースは、順を追ったウィザードベースのワークフロー作成プロセスでわかりやすく説明しています。この新しい方法はワークフローを作成するユーザ操作を簡単にすることを目的としています。柔軟性と使いやすさを向上させるために、できる限りこの方法を使用することをお勧めします。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Adding Workflow to Roles and Resources](#)」を参照してください。

1.1.1.3 Identity Governance へのアクセス

Identity Manager では、Identity Manager ダッシュボードの [環境設定] タブの下に、[Identity Governance 設定] という名前の新しいエントリが導入されています。これは、Identity Applications と Identity Governance 間の容易な統合のためのステップです。Identity Manager と Identity Governance の両方の許可を 1 つの場所で要求および承認することができます。

[Identity Governance 設定] ページでは、Identity Applications および Identity Governance の共通の要求および承認サービスとしてワークフローエンジンを設定することもできます。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Configuring the Identity Governance Settings](#)」を参照してください。

1.1.1.4 別個のサービスとしてのワークフローエンジン

Identity Manager はワークフローエンジンを別個のサービスとして提供します。このワークフローエンジンは、製品の以前のバージョンで Identity Applications に組み込まれていたワークフローエンジンの後継となります。この変更は、ワークフローエンジンが Identity Applications および Identity Governance から実行時にビジネスプロセス定義を実行し、両方の製品の共通の要求および承認サービスとして機能できるようにすることを目的としています。

デフォルトでは、ワークフローエンジンは Identity Applications インストールの一部としてインストールされます。ワークフローエンジンは、ワークフロー状態情報を igaworkflowdb という名前の新しいデータベースに保持します。既存のワークフロープロセスが実行状態にある場合、新しいワークフローエンジンが管理を開始する前に、そのデータは igaworkflowdb に移動されます。Identity Applications インストーラは、Identity Applications データベース idmuserappdb から igaworkflowdb にデータをコピーします。

ワークフローエンジンは REST サービスを使用して、ワークフローエンジンサービスからタスクとワークフロー履歴を取得します。Identity Applications インストールプログラムは、他の Identity Applications コンポーネントとの通信を確保するために、ワークフローエンジンサービスをクライアントとして OSP (One SSO Provider) に自動的に登録します。インストーラは、これらの接続と認証のプロパティを ism-configuration.properties ファイルに保存します。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Workflow Service](#)」を参照してください。

1.1.1.5 進行中のワークフローの状態の管理

Identity Manager では、REST API を介して進行中のワークフローを一時停止および再開することができます。これは通常、ワークフローの状態を失わずにワークフローデータベースをアップグレードする場合に役立ちます。ワークフローマイグレーション API は次のタスクを実行します。

- 1 ワークフローエンジンを停止し、実行中のワークフローを一時停止します。この状態では新しい要求を処理できません。
- 2 ワークフローの状態情報を読み取り各テーブルの JSON ファイルに書き込む、[エクスポート] REST API を呼び出します。これにより、これらすべての JSON ファイルが zip 圧縮され、応答として返されます。

- 3 [エクスポート] REST API によって作成された zip 圧縮済み JSON ファイルからデータをインポートする、[インポート] REST API を呼び出します。
- 4 ワークフローエンジンサービスを再開して、実行中のワークフローを処理し、新しい要求を処理します。

または、コンソールベースのマイグレーションツールを <LINUX_ISO>/user_application/IDM_Tools/WorkflowMigrationAPI.zip および <WINDOWS_ISO/IdentityApplications/IDM_Tools/WorkflowMigrationAPI.zip から使用します。このツールには、送信元および送信先のワークフローデータベースサーバに関する詳細を指定できる、サイレントプロパティファイルが含まれています。上記の手順で説明したのと同じ REST API を内部的に使用して、ワークフロー状態を送信元サーバから送信先サーバに移行します。

1.1.2 Windows プラットフォーム上の簡易インストール

Identity Manager では、Windows プラットフォーム用の新しい簡易化されたインストールプログラムが提供されています。この新しいインストールプログラムは、Identity Manager のコンポーネントをグラフィカルユーザインタフェース (GUI) モードでインストールするための簡潔な方法を提供します。

Identity Manager は、以下の Identity Manager コンポーネントをインストールおよび設定するためのウィザードベースのインストール方法を提供します。

- ◆ Identity Manager サーバ
- ◆ 識別情報アプリケーション
- ◆ Identity Reporting

新しいインストーラでは、標準設定モードとカスタム設定モードが導入されています。ほとんどの値で共通のデフォルト値が使用される標準設定は、製品をすばやくインストールするのに適しています。カスタム設定は運用環境に適しています。詳細については、『[NetIQ Identity Manager セットアップガイド \(Windows 用\)](#)』を参照してください。

1.1.3 Identity Manager コンポーネントのコンテナ化のサポート

コンテナとして提供される Identity Manager 4.8 は間もなく使用可能になります。

1.1.4 リモートローダインストールファイルの簡易パッケージ化

このバージョンでは、Linux および Windows オペレーティングシステム用の個別の ISO にリモートローダの簡易パッケージ化を提供します。このコンポーネントを、Identity Manager ISO ファイルからインストールする代わりに、個別にインストールできるようになりました。この変更は、このコンポーネントのインストール操作を簡単にするを目的としています。その設定プロセスは、以前のバージョンと同じままです。ファイル名は次のとおりです。

- ◆ **Linux:** Identity_Manager_4.8_RL_Linux.iso
- ◆ **Windows:** Identity_Manager_4.8_RL_Windows.iso

詳細については、『[NetIQ Identity Manager セットアップガイド \(Linux 用\)](#)』の「リモートローダのインストール」および『[NetIQ Identity Manager セットアップガイド \(Windows 用\)](#)』の「リモートローダのインストール」を参照してください。

1.1.5 クライアント設定の移動

Identity Applications を使用すると、クライアント設定を介して、UI 設定、動作、ブランド、およびアプリケーションへのアクセスをカスタマイズすることができます。クライアント設定には、ブランド設定、カスタム CSS、アクセス設定、およびカスタム動作が含まれます。1 つの Identity Applications インスタンスで複数のクライアント設定を行うことができ、さまざまなユーザセットをさまざまなクライアントにマッピングできます。クライアント設定は、アプリケーション設定の一部として Identity Applications データベースまたはファイルシステムに保存されます。このリリースでは、MigrationSettings という名前の移行ツールを使用して、データベースとファイルシステムの間でクライアント設定を移動することができます。このツールでは、以下のタスクを実行できます。

- ◆ Identity Manager インスタンス間で設定を転送します。たとえば、ステージングサーバから運用サーバに設定を転送します。
- ◆ ストレージオプションがファイルからデータベース (またはその逆) に変更される場合にクライアント設定を移行します。
- ◆ すべてのクライアント設定のバックアップを取り、後で設定を復元します。

移行ツールは、ISO ファイルの <LINUX_ISO>/user_application/IDM_Tools および <WINDOWS_ISO>/IdentityApplications/IDM_Tools にあります。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Copying the Client Settings](#)」を参照してください。

1.1.6 Identity Reporting 用の Microsoft SQL データベースのサポート

このリリースでは、Identity Reporting コンポーネントのために Microsoft SQL データベースのサポートが拡張されています。

1.1.7 Designer での新しいアクションのサポート

このリリースでは、Designer の Policy Builder で次のアクションのサポートが追加されています。詳細については、それぞれのドキュメントリンクを参照してください。

- ◆ [リソースの削除](#)
- ◆ [ロールの削除](#)
- ◆ [操作エンタイトルメントの場合](#)
- ◆ [REST エンドポイントの呼び出し](#)
- ◆ [リソースの変更](#)
- ◆ [ロールの変更](#)
- ◆ [名前付きパスワードの削除](#)
- ◆ [名前付きパスワードの設定](#)

1.1.8 Designer の新機能

Designer では以下の新機能が提供されています。

1.1.8.1 パッケージバージョン管理用の Git の使用

Identity Manager では、Designer のパッケージのバージョンを管理するために、オープンソースバージョン管理システムである Git が導入されています。Git を使用すると、変更の履歴を管理、追跡、維持したり、以前の状態の取得またはパッケージのさまざまな状態の比較を迅速かつ効率的に行うことができます。詳細については、『[NetIQ Designer for Identity Manager Administration Guide](#)』の「[Managing Package Versions Using Git](#)」を参照してください。

1.1.8.2 新しい Workflow Form Builder を使用したフォームの作成のサポート

Identity Manager では、新しい Workflow Form Builder でフォームを作成および管理するために、Designer のプロビジョニング要求定義エディタに [JSON フォーム] という名前の新しいタブが導入されています。このタブを使用して作成されたフォームは、JSON 形式で保存されます。フォームを作成した後、そのフォームをプロビジョニング要求定義に関連付けることができます。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - User's Guide to Form Builder](#)』を参照してください。

[JSON フォーム] タブの使用の詳細については、『[Designer の新機能のガイド](#)』を参照してください。

1.1.8.3 パフォーマンスの改善

Designer のパフォーマンスを改善するために、Designer ソフトウェアに次の変更が加えられました。

- ◆ Designer 起動スクリプトからドライバ設定ファイルが削除されました。これにより、Designer の起動時間が短縮されます。これらのファイルは、Designer インストールパッケージにある別のプラグインに組み込まれ、オンデマンドでロードされるようになりました。
- ◆ Designer を使用すると、Identity Manager 環境でインストールされたパッケージを管理して、必要なパッケージのみをご使用の環境に保持することができます。

Designer を初めて起動すると、[Manage Package (パッケージの管理)] ウィンドウが表示されます。または、[ヘルプ] > [Manage Packages (パッケージの管理)] に移動します。詳細については、『[NetIQ Designer for Identity Manager Administration Guide](#)』の「[Managing Installed Packages](#)」を参照してください。

- ◆ プロビジョニングビューでオブジェクトを追加、変更、または削除すると、Designer は、ワークスペースに存在するすべてのプロジェクトをリロードするのではなく、オブジェクトが変更されたユーザーアプリケーションコンテナのみを更新します。

1.2 サポートしているオペレーティングシステム

このリリースでは以下のプラットフォームのサポートが追加されました。

- ◆ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) SLES 12 SP4、SLES 15、および SLES 15 SP1
- ◆ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.5、RHEL 7.6、および RHEL 8
- ◆ Microsoft Windows Server 2016、2019

サポートされているオペレーティングシステムの完全なリストについては、[Identity Manager のシステム要件](#) ページを参照してください。このリリースでサポートされるパッケージ化されたコンポーネント、データベース、およびブラウザについては、[8 ページのセクション 2 「サポートされているコンポーネントのバージョン」](#) を参照してください。

1.3 修正された問題

このリリースには、次のソフトウェアの修正が含まれています。

- ◆ 7 ページのセクション 1.3.1「IDVault.get 関数および IDVault.globalQuery 関数を使用して複数の属性の値を返すことができる」
- ◆ 7 ページのセクション 1.3.2「許可名に特殊文字が含まれている場合、ダッシュボードに許可が正しく表示される」
- ◆ 7 ページのセクション 1.3.3「ワークフローの作成時に役割の作成が成功する」
- ◆ 7 ページのセクション 1.3.4「SAML 認証を使用する場合、OSP 検索フィルタに objectClass=User が含まれる」
- ◆ 7 ページのセクション 1.3.5「Designer で 2 つのユーザアプリケーションドライバを比較する際のパフォーマンスを改善」
- ◆ 8 ページのセクション 1.3.6「LDAP サーバが外部認証局によって署名された証明書を使用する場合、Designer が正常に認証される」
- ◆ 8 ページのセクション 1.3.7「Identity Applications がアンインストール後に正常に再インストールされる」
- ◆ 8 ページのセクション 1.3.8「Palette Extensions のインストール時に Designer を正常に更新できる」
- ◆ 8 ページのセクション 1.3.9「DXEvent モジュールから発生するイベントに暗号化された情報が含まれない」

1.3.1 IDVault.get 関数および IDVault.globalQuery 関数を使用して複数の属性の値を返すことができる

IDVault.get 関数および IDVault.globalQuery 関数を使用して、複数の属性の値を取得できるようになりました。(バグ 1146109)

1.3.2 許可名に特殊文字が含まれている場合、ダッシュボードに許可が正しく表示される

特殊文字を含む許可を検索した場合、ダッシュボードに正しい結果が正常に表示されます。(バグ 1101866)

1.3.3 ワークフローの作成時に役割の作成が成功する

統合アクティビティを持つワークフローを作成した場合、役割が正常に作成されます。(バグ 1122158)

1.3.4 SAML 認証を使用する場合、OSP 検索フィルタに objectClass=User が含まれる

OSP の検索フィルタが、SAML 認証方式を使用する場合に objectClass=User を含むように拡張されました。(バグ 1133744)

1.3.5 Designer で 2 つのユーザアプリケーションドライバを比較する際のパフォーマンスを改善

2 つのユーザアプリケーションドライバを比較する際の応答時間が改善されました。(バグ 1099198)

1.3.6 LDAP サーバが外部認証局によって署名された証明書を使用する場合、Designer が正常に認証される

外部認証局によって署名された証明書を LDAP サーバ認証に使用できるようになりました。(バグ 1127233)

1.3.7 Identity Applications がアンインストール後に正常に再インストールされる

Identity Applications を、アンインストール後に正常に再インストールできるようになりました。(バグ 1119806)

1.3.8 Palette Extensions のインストール時に Designer を正常に更新できる

Designer の更新を実行するときに、カスタマイズされたプラグインをバックアップするための新しいポップアップメッセージが表示されます。(バグ 1139932)

1.3.9 DXEvent モジュールから発生するイベントに暗号化された情報が含まれない

DXEvent モジュールが、コマンド XML を含むすべての DXEvent イベントを表示するように拡張されました。(バグ 1112724)

1.4 変更された機能またはサポートを終了した機能

機能を合理化するために、Identity Manager 4.8 ではさまざまな項目が変更されるか、サポートを終了しています。サポートを終了した項目の多くは、代替機能が用意されています。

1.4.1 非推奨となった機能

このリリースでは、Office 365 用の Identity Manager ドライバはサポートされていません。Azure Active Directory 用の Identity Manager ドライバを使用することをお勧めします。Azure Active Directory ドライバへの移行方法が提供されています。Office 365 ドライバから Azure ドライバへの移行の詳細については、『[NetIQ Identity Manager Driver Implementation Guide for Azure Active Directory](#)』を参照してください。

1.4.2 廃止された機能

Identity Manager コンポーネントを対象にした NAudit および XDAS による監査は、このリリースで廃止されました。監査目的には CEF を使用する必要があります。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Configuring Auditing in Identity Manager](#)』を参照してください。

2 サポートされているコンポーネントのバージョン

- ◆ [9 ページのセクション 2.1 「Identity Manager のコンポーネントのバージョン」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 2.2 「サードパーティのコンポーネントのバージョン」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 2.3 「データベース」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 2.4 「Web ブラウザ」](#)

2.1 Identity Manager のコンポーネントのバージョン

Identity Manager 4.8 には、次のコンポーネントがバンドルされています。

- ◆ NetIQ eDirectory 9.2
- ◆ NetIQ iManager 3.2
- ◆ NetIQ Identity Manager Engine 4.8
- ◆ NetIQ Identity Manager リモートローダ 4.8
- ◆ NetIQ Identity Manager ファンアウトエージェント 1.2.2
- ◆ NetIQ Designer for Identity Manager 4.8
- ◆ NetIQ Identity アプリケーション 4.8
- ◆ NetIQ Single Sign-on (One SSO) 6.3.6
- ◆ NetIQ Identity Manager Self-Service Password Reset 4.4.0.3
- ◆ NetIQ Identity Manager Client Login Extension 4.2
- ◆ NetIQ Identity Manager Identity Reporting 6.5
- ◆ NetIQ Sentinel Log Management for IGA 8.2.2 (イベント監査用)
- ◆ NetIQ Analyzer for Identity Manager 4.8
- ◆ NetIQ Identity Manager ドライバ。ドライバのバージョンについては、[NetIQ Identity Manager のドライバページ](#)を参照してください。

注：Identity Manager ドライバのバージョンは、エンジンのバージョンとは無関係であり、ドライバを実行するために必要な最小エンジンバージョンを示していません。

2.2 サードパーティのコンポーネントのバージョン

このリリースでは以下の依存コンポーネントのサポートが追加されました。

- ◆ Azul Zulu 1.80_222
- ◆ OpenSSL 1.0.2r-33
- ◆ Apache Tomcat 9.0.22-1
- ◆ PostgreSQL 9.6.12
- ◆ Apache ActiveMQ 5.15.9

2.3 データベース

PostgreSQL 9.6.12 に加えて、このリリースでは次のデータベースのサポートが追加されています。

- ◆ Oracle 18c (Identity Applications の場合のみ)
- ◆ MS SQL 2017

2.4 Web ブラウザ

次のバージョン以上のいずれかのブラウザ：

- ◆ Google Chrome 77
- ◆ Mozilla Firefox 68

- ◆ Apple Safari 12
- ◆ Microsoft Edge 44

3 システム要件

ハードウェア要件とサポートされているオペレーティングシステムについては、[Identity Manager のシステム要件](#)ページを参照してください。

4 NetIQ Identity Manager 4.8 のインストール

Identity Manager 4.8 では、Advanced Edition と Standard Edition を単一の ISO ファイルで提供しています。インストールファイルをダウンロードする前に、各エディションに搭載されている機能および Identity Manager コンポーネントをダウンロードする際のオプションを理解する必要があります。

- ◆ [10 ページのセクション 4.1「Identity Manager Advanced Edition および Standard Edition でサポートされている機能」](#)
- ◆ [11 ページのセクション 4.2「Identity Manager のダウンロード」](#)
- ◆ [12 ページのセクション 4.3「実行可能ファイルおよびデフォルトインストールパスの場所の確認」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 4.4「NetIQ Identity Manager 4.8 のインストール」](#)

4.1 Identity Manager Advanced Edition および Standard Edition でサポートされている機能

さまざまなカスタマのニーズを満たすために、次の 2 つの製品グループで Identity Manager 機能が提供されています。

- ◆ Identity Manager Advanced Edition
- ◆ Identity Manager Standard Edition

Identity Manager Advanced Edition には、Identity Manager Standard Edition に用意されている Identity Manager の機能に加えて追加機能が含まれています。Identity Manager Advanced Edition と Standard Edition で使用可能な機能の比較を以下の表に示します。

機能	Advanced Edition	Standard Edition
ルールベースの自動化されたユーザプロビジョニング	対応	対応
リアルタイム Identity 同期	対応	対応
パスワード管理とパスワードセルフサービス	対応	対応
ユニフォーム Identity 情報ツール (Analyzer)	対応	対応
REST API およびシングルサインオンのサポート	対応	対応 (制限されたサポート)
現在の状態のレポート	対応	対応
役割ベースのエンタープライズレベルのプロビジョニング	対応	非対応

機能	Advanced Edition	Standard Edition
ビジネスポリシー適用に対する自動化された承認ワークフロー	対応	非対応
Identity アプリケーションの高度なセルフサービス	対応	非対応
簡単なリソースプロビジョニングのためのリソースモデルとカタログ	対応	非対応
履歴状態のレポート	対応	非対応
接続されたシステムのレポート	対応	非対応
役割およびリソースの管理	対応	非対応

4.2 Identity Manager のダウンロード

Identity Manager 4.8 を購入した後、[Identity Manager 製品 Web サイト](#)にログインして、購入したソフトウェアをダウンロードできるリンクをクリックします。各ファイルに含まれている Identity Manager コンポーネントを以下に示します。

ファイル名	説明
Identity_Manager_4.8_Linux.iso	Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、iManager Web 管理)、Identity Applications、および Identity Reporting が含まれています
Identity_Manager_4.8_RL_Linux.iso	Linux 用の Identity Manager リモートローダが含まれています
Identity_Manager_4.8_Containers.tar.gz	Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、ActiveMQ、PostgreSQL、フォームレンダラ、OSP、Identity Applications、Identity Reporting、SSPR、および iManager (SLES および Ubuntu プラットフォーム用) に対する個々のコンテナイメージが含まれています
Identity_Manager_4.8_Windows.iso	Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、iManager Web 管理)、Identity Applications、および Identity Reporting が含まれています
Identity_Manager_4.8_RL_Windows.iso	Windows 用の 64 ビットおよび .NET リモートローダが含まれています
Identity_Manager_4.8_Designer_Linux.tar.gz	Linux プラットフォーム用の Designer が含まれています
Identity_Manager_4.8_Designer_Windows.zip	Windows プラットフォーム用の Designer が含まれています
Identity_Manager_4.8_Designer_MacOSX.dmg	MacOS 10.14 (Mojave) 用の Designer ファイルが含まれています
Identity_Manager_4.8_Analyzer_Linux.tar.gz	Linux プラットフォーム用の Analyzer が含まれています
Identity_Manager_4.8_Analyzer_Windows.zip	Windows プラットフォーム用の Analyzer が含まれています
SentinelLogManagementForIGA8.2.2.0.tar.gz	Identity Governance and Administration (IGA) 用の Sentinel Log Management が含まれています このインストールは Linux 上のみでサポートされています。

- 1 [NetIQ のダウンロードの Web サイト](#)に移動します。
- 2 **[Product or Technology (製品またはテクノロジー)]** メニューで、ドロップダウンリストから、[\[Identity Manager\]](#)、[\[バージョン\]](#) の順に選択します。[\[検索\]](#) をクリックします。
- 3 **[NetIQ Identity Manager のダウンロード]** ページで、ダウンロードするファイルの横の [\[ダウンロード\]](#) ボタンをクリックします。
- 4 画面の指示に従って、ファイルをコンピュータ上のディレクトリにダウンロードします。

4.3 実行可能ファイルおよびデフォルトインストールパスの場所の確認

- [13 ページのセクション 4.3.1 「Linux 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス」](#)
- [14 ページのセクション 4.3.2 「Windows 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス」](#)

4.3.1 Linux 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス

Identity Manager のコンポーネント	ISO 内の実行可能ファイルの場所	デフォルトのインストールパス
Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、iManager Web 管理が含まれています)	マウントされた場所の install.sh	<ul style="list-style-type: none"> ◆ エンジン : /opt/novell/eDirectory/lib/dirxml ◆ リモートローダ : /opt/novell/dirxml/bin/x86_64 ◆ ファンアウトエージェント : /opt/novell/dirxml/fanoutagent ◆ iManager: /var/opt/novell/iManager
Identity アプリケーション (Identity Manager ダッシュボード、Identity Manager 管理インタフェース、ユーザアプリケーション、役割とリソースのサービスドライバ、ユーザアプリケーションドライバ、設定更新ユーティリティ、One SSO Provider、Self Service Password Reset)	マウントされた場所の install.sh	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 識別情報アプリケーション : /opt/netiq/idm/apps ◆ ユーザアプリケーション : /opt/netiq/idm/apps/UserApplication ◆ 設定更新ユーティリティ : /opt/netiq/idm/apps/configupdate ◆ フォームレンダラ : /opt/netiq/idm/apps/sites ◆ NGINX: /opt/netiq/common/nginx
Designer for Identity Manager	/designer/packages	/root/designer
Identity Reporting	マウントされた場所の install.sh	/opt/netiq/idm/apps/IDMReporting
パスワード管理コンポーネント (Standard Edition)	./install.sh (マウントされた場所の /sspr ディレクトリ内)	/opt/netiq/idm/apps/sspr
Identity Manager 用の Analyzer	/analyzer/packages	/root/analyzer
Sentinel Log Management for IGA	./install.sh (SentinelLogManagementForIGA8.2.2.0.tar.gz ファイルの /SentinelLogManagementforIGA ディレクトリ内)	/opt/novell/sentinel

4.3.2 Windows 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス

Identity Manager のコンポーネント	ISO 内の実行可能ファイルの場所	デフォルトのインストールパス
Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、iManager Web 管理が含まれています)	\\<iso mounted location>\IdentityManagerServer\ 内に配置された install.exe	<ul style="list-style-type: none"> ◆ エンジン : C:\netiq\idm ◆ リモートローダ : C:\netiq\idm\RemoteLoader ◆ ファンアウトエージェント : C:\netiq\idm\FanoutAgent ◆ iManager: C:\netiq\idm\iManager
Identity アプリケーション (Identity Manager ダッシュボード、Identity Manager 管理インタフェース、ユーザアプリケーション、役割とリソースのサービスドライバ、ユーザアプリケーションドライバ、設定更新ユーティリティ、One SSO Provider、Self Service Password Reset)	\\<iso mounted location>\IdentityApplications\ 内に配置された install.exe	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 識別情報アプリケーション : C:\netiq\idm\apps\ ◆ ユーザアプリケーション : C:\netiq\idm\apps\UserApplication ◆ 設定更新ユーティリティ : C:\netiq\idm\apps\UserApplication\configupdate ◆ フォームレンダラ : C:\netiq\idm\apps\sites ◆ NGINX: C:\netiq\common\nginx
Designer for Identity Manager	Identity_Manager_4.8_Designer_Windows.zip ファイルの \designer_install\ フォルダ内に配置された install.exe	C:\netiq\
Identity Reporting	\\<iso mounted location>\IdentityReporting\ 内に配置された install.exe	C:\netiq\idm\apps\IdentityReporting
Identity Manager 用の Analyzer	Identity_Manager_4.8_Analyzer_Windows.zip ファイルの \analyzer_install\ フォルダ内に配置された install.exe	C:\netiq\

4.4 NetIQ Identity Manager 4.8 のインストール

インストールしているエディションに応じて、以下のリソースのいずれかの情報を確認します。

- ◆ Advanced Edition: 『[NetIQ Identity Manager Setup Guide for Linux](#)』 または 『[NetIQ Identity Manager セットアップガイド \(Windows 用\)](#)』
- ◆ Standard Edition: [NetIQ Identity Manager Standard Edition をインストールおよびアップグレードするためのクイックスタートガイド](#)

5 NetIQ Identity Manager 4.8 へのアップグレード

Identity Manager 4.8 へのアップグレードは、Identity Manager 4.7.x および 4.6.4 バージョンから実行できます。アップグレードを開始する前に、現在のバージョンに対応するリリースノートの情報を確認することをお勧めします。

- ◆ 15 ページのセクション 5.1 「Identity Manager 4.7.x バージョンからのアップグレード」
- ◆ 17 ページのセクション 5.2 「Identity Manager 4.6.x バージョンからのアップグレード」
- ◆ 18 ページのセクション 5.3 「Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 18 ページのセクション 5.4 「Standard Edition へのアップグレード」

Identity Manager のアップグレードに関する詳細については、『[NetIQ Identity Manager Setup Guide for Linux](#)』の「Upgrading Identity Manager」を参照するか、『[NetIQ Identity Manager セットアップガイド \(Windows 用\)](#)』の「Upgrading Identity Manager」を参照してください。

5.1 Identity Manager 4.7.x バージョンからのアップグレード

次の表に、Identity Manager 4.7.x バージョンのコンポーネントごとのアップグレードパスを一覧表示します。

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
Identity Manager エンジン	4.7.x	<ol style="list-style-type: none">1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。2. アイデンティティポルトを 9.2 にアップグレードします。3. Identity Manager エンジンを 4.8 にアップグレードします。
リモートローダ / 展開エージェント	4.7.x	4.8 リモートローダ / 展開エージェントをインストールします。
Designer	4.7.x	Designer 4.8 のインストール

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
識別情報アプリケーション	4.7.x	<p>Identity Applications をアップグレードする前に、アイデンティティポータルおよび Identity Manager エンジンがそれぞれ 9.2 および 4.8 にアップグレードされていることを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. Tomcat を停止します。 3. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンについては、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 4. (状況によって実行) SSPR が別のサーバにインストールされている場合は、コンポーネントを 4.8 バージョンにアップグレードします。 5. ユーザアプリケーションドライバ、役割およびリソースドライバのパッケージを更新します。 6. Identity Applications を 4.8 にアップグレードします。 7. Tomcat を起動します。
Identity Reporting	4.7.x	<ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンの詳細については、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 3. SLM for IGA を、サポートされるバージョンにアップグレードします。 4. データ収集サービスドライバと管理対象サービスゲートウェイドライバのパッケージを更新します。 5. Identity Reporting を 4.8 にアップグレードします。 6. (状況によって実行) [Identity Manager データ収集サービス] ページからデータ同期ポリシーを作成します。 7. Tomcat を起動します。

アップグレードを開始する前に、[NetIQ ドキュメントページ](#)で現在のバージョンに対応するリリースノートの情報を確認することをお勧めします。

5.2 Identity Manager 4.6.x バージョンからのアップグレード

次の表に、Identity Manager 4.6.x バージョンのコンポーネントごとのアップグレードパスを一覧表示します。

コンポーネント	ベースバージョン	中間手順	アップグレード済みのバージョン
Identity Manager エンジン	4.6.x。ここで x は 0 ~ 3 です。	4.6.4 を適用します	<ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. アイデンティティボルトを 9.2 にアップグレードします。 3. Identity Manager エンジンを 4.8 にアップグレードします。
リモートローダ / 展開エージェント	4.6.x。ここで x は 0 ~ 3 です。	4.6.4 を適用します	4.8 リモートローダ / 展開エージェントをインストールします。
Designer	4.6.x。ここで x は 0 ~ 3 です。		Designer 4.8 のインストール
識別情報アプリケーション	4.6.x。ここで x は 0 ~ 3 です。	4.6.4	<p>Identity アプリケーションをアップグレードする前に、識別ボルトと Identity Manager エンジンがそれぞれバージョン 9.2 と 4.8 にアップグレードされていることを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. Tomcat を停止します。 3. ユーザアプリケーションドライバ、役割およびリソースドライバのパッケージを更新します。 4. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンについては、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 5. (状況によって実行) SSPR が別のサーバにインストールされている場合は、コンポーネントを 4.8 バージョンにアップグレードします。 6. Identity Applications を 4.8 にアップグレードします。 7. Tomcat を起動します。

コンポーネント	ベースバージョン	中間手順	アップグレード済みのバージョン
Identity Reporting	4.6.x。ここで x は 0 ~ 3 です。	4.6.4	<ol style="list-style-type: none"> オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンの詳細については、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 SLM for IGA を、サポートされるバージョンにアップグレードします。 データ収集サービスドライバと管理対象サービスゲートウェイドライバのパッケージを更新します。 Identity Reporting を 4.8 に移行します。 (状況によって実行) 4.6.4 からアップグレードしている場合に適用されます。 Sentinel の既存のポリシーを削除して、[Identity Manager データ収集サービス] ページからデータ同期ポリシーを作成します。 Tomcat を起動します。

アップグレードを開始する前に、[NetIQ ドキュメント](#) ページで現在のバージョンに対応するリリースノートの情報を確認することをお勧めします。

5.3 Advanced Edition へのアップグレード

NetIQ では、以前の Advanced Edition または Standard Edition から Identity Manager 4.8 Advanced Edition にアップグレードするために、次のアップグレードパスを提供しています。

- ◆ 4.7 Advanced Edition から Identity Manager 4.8 Advanced Edition にアップグレード
- ◆ 4.7 Standard Edition から Identity Manager 4.8 Advanced Edition にアップグレード(次の方法のいずれかを使用):
 - ◆ 4.7 Standard Edition から 4.8 Standard Edition にアップグレードしてから、Identity Manager 4.8 Advanced Edition にアップグレード
 - ◆ 4.7 Standard Edition から 4.7 Advanced Edition にアップグレードしてから、Identity Manager 4.8 Advanced Edition にアップグレード

5.4 Standard Edition へのアップグレード

Identity Manager 4.8 Standard Edition は、Identity Manager 4.7 Standard Edition からアップグレードできます。Identity Manager 4.6 より前のバージョンからアップグレードする場合は、Linux と Windows の両プラットフォームで、既存のアプリケーションサーバから Tomcat に Identity

Reporting を移行する必要があります。アップグレード手順については、[NetIQ Identity Manager 4.8 Standard Edition をインストールおよびアップグレードするためのクイックスタートガイド](#)を参照してください。

Identity Manager 4.8 Standard Edition は、引き続き以下のレポートに対応します。

- ◆ ユーザ別認証
- ◆ サーバ別認証
- ◆ データベース統計情報
- ◆ セルフパスワード変更
- ◆ パスワードリセット
- ◆ 識別ポータルドライバ関連付けレポートの最新状態
- ◆ 識別ポータルユーザレポートの最新状態
- ◆ ユーザパスワード変更イベントサマリ

詳細については、『[Administrator Guide to NetIQ Identity Reporting](#)』を参照してください。

重要: レポートを使用するには、Identity Reporting に最新のレポート定義をインポートします。Reporting アプリケーションにログインし、アプリケーションで表示される [ダウンロード] ページを使用してレポートをダウンロードします。

6 既知の問題

NetIQ は、弊社の製品が企業のソフトウェアの必要にかなった質の高いソリューションを提供できるよう努めています。次の問題は、現在調査中です。いずれかの問題についてさらに支援が必要な場合は、[テクニカルサポート](#)に連絡してください。

- ◆ [19 ページのセクション 6.1 「Identity アプリケーションの問題」](#)
- ◆ [20 ページのセクション 6.2 「コンテナ化の問題」](#)

6.1 Identity アプリケーションの問題

Identity アプリケーション (ダッシュボード、Identity Applications Administration インタフェース、およびユーザアプリケーションを含む) を使用するとき、次の問題が発生する場合があります。

- ◆ [19 ページのセクション 6.1.1 「ブール属性の部分文字列値を使用したエンティティの検索はサポート対象外」](#)
- ◆ [20 ページのセクション 6.1.2 「Identity アプリケーションおよび SSPR Catalina で 5093 ノードサービスエラーが報告される」](#)
- ◆ [20 ページのセクション 6.1.3 「グローバルクエリがカスタムエンティティの文字列属性をフェッチしない」](#)

6.1.1 ブール属性の部分文字列値を使用したエンティティの検索はサポート対象外

問題: Identity アプリケーションは、[カスタマイズ] > [エンティティの設定] > [属性の検索] で定義された属性に対する部分文字列検索を許可します。ただし、定義された属性が (文字列ではなく) ブール型である場合、部分文字列値を使用した検索はサポートされません。

たとえば、CN、OSVersion、RAMSize、Processor、および isDualSIM (isDualSIM はブール属性) などの属性を持つ Mobile という名前のエンティティを作成し、検索テキストフィールドに部分文字列値 *Fal* を指定して isDualSIM に基づく検索を発行した場合、正しいエンティティが返されません (バグ 1144267)。

解決策: ブール属性を持つエンティティを検索するには、検索テキストフィールドに絶対値 *True* または *False* を指定します。同じ例を使用して、詳しく説明すると、検索テキストフィールドに値 *False* を入力して、isDualSIM 属性を持つエンティティ Mobile を false として検索します。エンティティの正しいリストが返されます。

6.1.2 Identity アプリケーションおよび SSPR Catalina で 5093 ノードサービスエラーが報告される

問題: Identity アプリケーションおよび SSPR サーバの catalina.out ファイルに次のエラーが表示される場合は、エラーを無視してください。

```
ERROR, node.NodeService, error starting up node service: 5093
ERROR_NODE_SERVICE_ERROR (ldap node service requires that setting LDAP -> LDAP
Directories -> default -> Connection -> LDAP Test User is configured)
```

(バグ 1138941)

このエラーは、Identity Manager によって利用されない SSPR 機能が原因で発生します。これによって機能が失われることはありません。

解決策: 現時点で解決策はありません。

6.1.3 グローバルクエリがカスタムエンティティの文字列属性をフェッチしない

問題: Identity Applications で、新しい JSON フォームで検索を実行する場合に、グローバルクエリがカスタムエンティティの文字列属性をフェッチしません。フォームフィールドには必要な属性の代わりにエンティティの DN 値が入力されています。

解決策: 新しいフォームでグローバルクエリを使用する際に、ログインしているユーザには検索されたエンティティに対する比較、読み込み、およびブラウズのための ACL 許可が必要です。

6.2 コンテナ化の問題

6.2.1 Identity Reporting を設定する際に重複したプロンプトが表示される

問題: Identity Reporting の設定時に、Tomcat キーストアパスワードの重複したプロンプトが表示されます。(バグ 1149803)

解決策: 現時点で解決策はありません。ただし、機能の損失はありません。

7 連絡先情報

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。改良点に関するご意見は、Documentation-Feedback@netiq.com (mailto:Documentation-Feedback@netiq.com) まで電子メールでお寄せください。貴重なご意見をぜひお寄せください。

詳細な連絡先情報については、[サポート連絡先情報 Web サイト](http://www.netiq.com/support/process.asp#phone) (<http://www.netiq.com/support/process.asp#phone>) を参照してください。

一般的な会社情報と製品情報については、NetIQ Corporate の Web サイト (<http://www.netiq.com/>) を参照してください。

他のユーザや NetIQ のエキスパートとやり取りするには、弊社のコミュニティ (<https://www.netiq.com/communities/>) のアクティブなメンバーになってください。NetIQ オンラインコミュニティでは、製品情報、有益なリソースへの役立つリンク、ブログ、およびソーシャルメディアチャンネルが用意されています。

8 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許に関する方針、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.netiq.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2019 NetIQ Corporation. All Rights Reserved.